

第 186 回川越市都市計画審議会 会議録

※以下は当審議会における「川越市都市計画マスタープランの改定について」に関する内容のみを抜粋したものです。

その他

報告事項 「川越市都市計画マスタープラン」の改定について

説明 資料：現行プランに基づく成果と本市の現状から見る今後の課題

意見

(委員) 土地利用の方針について、圏央道のインパクトが現マスタープランには何も反映されていない。圏央道が開通し、坂戸インターチェンジもでき、鶴ヶ島インターチェンジの周辺も開発が進んでいる。隣接した市・まちの状況とは言え、我が町に与える特に産業系の影響は非常に大きいと思う。市内だけに閉じこもらず、もう少し広い視点で今後の影響を分析するべきだと思う。そのような見解・立場で検討をお願いしたい。

(委員) 安心安全なまちづくりの方針の中で、災害リスク等も勘案して都市機能及び居住誘導を図る部分があるが、川越市は約 30%が居住誘導区域、30%が浸水想定区域と確認している。今後 20 年でのようにやっていくのかはすごく重要なポイントになると思うので、そこをしっかりと加味しながら計画して欲しい。

(委員) 水と緑のまちづくりの方針について、まとまった樹林地や大規模公園、仮称川越市森林公園計画地、福原地区や笠幡から名細地区もそうだが、森林の保全というのが非常に大きな課題かと思う。マスタープランとしては変わらないと思うが、具体的なアクション、保全をきちんと図れるような対策をマスタープランに呼び込んで欲しい。